

平成28年度 災害時多言語情報センター運営訓練

シミュレーション訓練 実施報告書

(公財)埼玉県国際交流協会は、災害時に県国際課と連携して設置・運営することになっている「災害時多言語情報センター」について、避難所設置等の役割を担う県内市町村及び市町村国際交流協会への周知を図るとともに、連携強化を図ることを目的とした実践的な訓練として、災害時翻訳シミュレーション訓練を実施した。

(参考)「災害時多言語情報センター 運営訓練」事前会議について

日 時：平成29年2月13日(月) 14:00~16:00

会 場：埼玉県浦和合同庁舎 5階 第5会議室

<スケジュール>

時間	内 容
14:00-14:20	災害時多言語情報センターについて 埼玉県国際課 多文化共生・NGO担当
14:20-15:00	講演「災害時外国人支援に関する取組みについて」 ～熊本地震災害多言語支援センター での活動を通じて～ (講師)公益財団法人横浜市国際交流協会 藤井 美香 さん
15:00-15:30	参加者による意見交換 <グループワーク> 質疑応答 等
15:30-16:00	実践訓練：翻訳等シミュレーション訓練の実施について

1 訓練概要

大規模災害発生による多言語情報センターの設置を想定し、「県内における外国人等被災状況の確認」、「被災者への提供情報の翻訳」について、シミュレーション訓練を実施する。

2 日 時

平成29年3月1日(水) 10:00~15:00

3 被害想定

平成29年2月28日(火) 10:00頃

埼玉県全域に、最大震度6弱(M8.1)の地震が発生し、24時間が経過。

4 訓練参加者

- ① 埼玉県国際課、②埼玉県国際交流協会
- ③ 県内市町村及び国際交流協会職員：(事前会議) 30人 (訓練) 37人
- ④ 通訳翻訳ボランティア登録者：(訓練) 9言語38人

参考 (通訳翻訳ボランティアについて)

協会登録ボランティアを対象に、訓練では、8言語の登録者にメールにて依頼した。言語別の依頼者数及び訓練参加者数は以下のとおり。

登録言語	登録者数	依頼数	訓練参加者数
英語	432	410	15
中国語	110	105	5
スペイン語	52	50	4
ポルトガル語	15	13	3
韓国・朝鮮語	39	37	3
タガログ語	10	7	2
タイ語	18	16	1
ベトナム語	9	8	3

5 訓練経過について

① 「被災状況確認」シミュレーション

No.	実施時間	作業内容	使用フォーム
災害発生			
1	10:00	県は県協会へ「災害時多言語情報センター」の設置を要請。 (TELにて)	
2	10:06	県協会は「災害時多言語情報センター」を設置。 センター開設を県内市町村及び市町村協会へ周知。	
3	10:12	県内市町村及び市町村協会へ、被災状況の確認を依頼。(メール)	被災状況報告
4	別表1 (①受信)	市町村及び市町村協会は、域内の被災状況を確認し、 県協会へ回答。(メール)	被災状況報告
5	随時 別表4	県協会は被災状況報告を受領。 被災状況報告一覧を作成し、県内の被災状況の把握に努める。	被災状況報告 一覧

② 多言語翻訳シミュレーション

No.	実施時間	作業内容	使用フォーム
1	10:34	県協会より、市町村及び市町村協会へ、被災者への提供情報の翻訳について、有無を確認。	翻訳依頼票 翻訳フォーム
2	別表1 (② 受信) (翻依頼)	市町村及び市町村協会から、翻訳依頼言語について回答。 (全参加団体) 市町村及び市町村協会から、県協会へ翻訳依頼。(13団体)	翻訳依頼票 翻訳フォーム
3	別表2 別表3	県協会において、文書の翻訳作業。 翻訳終了後、市町村及び市町村協会へ翻訳情報の提供。	翻訳依頼管理表 翻訳フォーム
4	~15:00	市町村は翻訳情報を受領。 被災者への情報提供。	翻訳フォーム
	17:32	シミュレーション訓練の終了	

6 訓練実施による課題等

● (訓練全体について)

被災等有事の際に、メール送受信の環境が維持できるかは不明である。

有事の際に限らず、今回の訓練においても、セキュリティーの関係からメール(添付メール)の受信ができない団体が複数あり、FAXでの対応が必要であった。

● (メールの送受信について)

セキュリティーの関係から送信メールにパスワードをかける団体が複数あったが、多数の団体からの多数のメールを同時に扱う必要のある場合を想定すると、処理の困難が予想される。

今回の訓練時においても、本メールと、パスワード記載メールが連続していない(間に他のメールが入ってしまう)状況が発生し確認に時間を要した。

● (様式について)

「翻訳依頼票」及び「翻訳フォーム」については、重複する内容も多くあること、被災等有事の際には極力簡素な対応が求められること等から一本化することが望ましい。

● 「翻訳依頼票」により、必要な翻訳言語を申告していただいたが、有事の混乱の中、その依頼に基づく情報提供(個別依頼に基づく個別対応)は難しいと感じた。事前に登録してもらった担当課の連絡先に、翻訳済の文書(特定の市町村のための情報を除く)を全て提供し、各々の現場で必要性を判断してもらうことが現実的だと感じた。

- 「被災状況確認」について、訓練では、比較的速やかな対応が可能だったが、被災等有事の際にも同様の対応及び状況把握が可能かは未知数である。発災直後には把握できない状況の多々あることが予想されるため、不明な時点ではその旨の回答をしていただき、状況が変わる（分かる）毎に更新情報を送っていただくことが必要だと感じた。

- （ボランティアの確保について）

当協会に登録のボランティアについては、「被災時の対応が可能か」事前に登録（申告）してもらっているが、被災時に実際に確認しながら依頼をするのは難しいと感じた。

また、実際に依頼をする際にはメールの送信による依頼を想定しているが、今回の訓練ではメールを受信できない登録者も多くいた。被災等有事の際には、さらに多くの登録者がメールを受信できない可能性があり、その状況の中で翻訳に対応できる方を見つけるのはより困難だと思われる。

- （翻訳文書について）

メールでの翻訳依頼を想定すると、実際に翻訳者が一堂に会することは想定しないため、「1 翻訳文書につき 1 翻訳者」で対応することになり、ダブルチェック等内容の確認の徹底が難しい。

- 翻訳文書について、翻訳者から質問が発生した時に、有事の際に担当者に対応することが難しいことが想定される。解釈が分かれるような文書の翻訳依頼を無くすとともに、事前に共有できる情報は統一しておく等の対応が必要である。

- 「翻訳フォーム」には、翻訳の緊急度についての記載があるが、今回は訓練であるため、内容に関わらず、依頼のあった順に対応をした。実際の有事の際には、内容を精査し、より緊急性の高い内容の翻訳から対応する必要性があると感じた。その反面、必要性が低いと判断された内容については、かなり対応に時間がかかることが予想される。汎用性のある内容については、事前に翻訳文を用意しておくなどの対応が必要になってくると思われる。